

*2024年度の国公立大入試前期日程「国語」や小論文、一部私大入試で出題された本を紹介します

本校図書館 高崎市立図書館 県立図書館

京大理系	奈倉有里 『夕暮れに夜明けの歌を——文学を探しにロシアに行く』(イースト・プレス)		○	○
	石原純 『永遠への理想』(岩波書店)			
京大文系	奈倉有里 『夕暮れに夜明けの歌を——文学を探しにロシアに行く』(イースト・プレス)		○	○
	高村光太郎 『永遠の感覚』<日本近代随筆選 1> ※青空文庫でも読めます			○
東大文科	小川さやか 『時間を与えあう 商業経済と人間経済の連環を築く「負債」をめぐって』 <負債と信用の人類学:人間経済の現在(以文社)>			
	菅原百合絵 『クレリエール』			
東大理科	小川さやか 『時間を与えあう 商業経済と人間経済の連環を築く「負債」をめぐって』			
北大	藤田直哉 『新世紀ゾンビ論』(筑摩書房)			
	渡辺裕 『サウンドとメディアの文化資源学』(春秋社)		○	
東北大	杉田敦 『境界線の政治学』(岩波現代文庫, 学術; 337)		○	○
	久世光彦 『向田邦子との二十年』(ちくま文庫; <6-3)		○	○
一橋大	筒井 清輝 『人権と国家』(岩波新書)		○	○
	森田 思軒 『翻訳の心得』<日本近代思想大系 15(岩波書店)>	○	○	○
	眞嶋俊造 『正しい戦争はあるのか?: 戦争倫理学入門』(大隅書店)			
新潟大	池上俊一 『歴史学の作法』(東京大学出版)			
	石田光規 『「友だち」から自由になる』(光文社)			
名古屋大	市橋 伯一 『増えるものたちの進化生物学』(ちくまプリマー新書)	○	○	○
大阪大(文)	野家啓一 『ヒトと人のあいだ シリーズヒトの科学』(岩波書店)			
	坂崎かおる 『母の散歩』			
大阪大(人間科・外国語・法・経済)	『夢と豚と黎明: 黄錦樹作品集』(人文書院)			
	森川 輝一 『誕生を祝うために』			
神戸大	飯野勝己 『暴力はいかにして哲学の問題になるのか』<『暴力をめぐる哲学』(晃洋書房)>			
九州大(文)	佐藤 仁 『争わない社会』(NHK出版)佐藤 仁			○
九州大(法・経済・教)	石川幹人 『だからフェイクにだまされる』(ちくま新書)			
早稲田(文化構想)	渡辺浩 『明治革命・性・文明』(東京大学出版)		○	○
	李 禹煥 『両義の表現』(みすず書房)		○	○
	荒木浩 『京都古典文学めぐり: 都人の四季と暮らし』(岩波書店)	○	○	
早稲田(法)	岡本源太 『コペルニクスを読む』(ジョルダノ・ブルーノ)			
	堀千晶 『ドゥルーズ思考の生態学』(月曜社)			
早稲田(文)	橋本祐子 『裁判官は感情に動かされてはならないのか?』<『現代思想』2023.8月号(青土社)>			
	田中優子 『「野の果て」の世界』<『図書』2023.7月号(岩波書店)>	○		
早稲田(教)	元森絵里子 『多様な子どもの近代』(青弓社)		○	○
	石牟礼道子 『苦海浄土 わが水俣病』(講談社)	○	○	○
早稲田(政経)	稲増 一憲 『マスメディアとは何か』(中公新書)		○	
早稲田(社会科学)	酒井隆史 『賢人と奴隷とバカ』(亜紀書房)			
慶應(商)論文	戸谷洋志 『スマートな悪』(講談社)		○	
慶應(文)論文	佐藤 仁 『争わない社会』(NHK出版)			○
慶應(法)論述	モーリス・クラントン 『政治的対話篇』(みすず書房)			○
同志社	中山元 『労働の思想史』(平凡社)			
立命館	池内了 『江戸の宇宙論』(集英社)	○		
	戸塚学 『言葉の形を読む』<人文学のレッスン (水声社)>		○	
関西	加藤 典洋 『可能性としての戦後以後』(岩波書店)			○